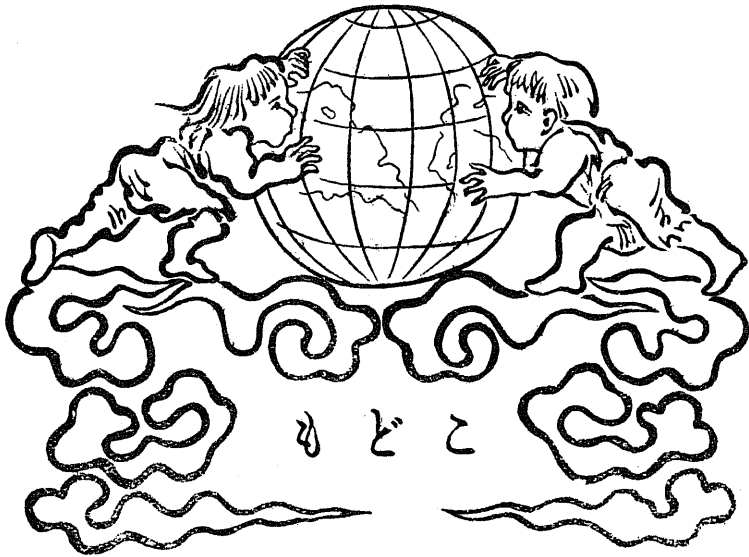


も ど 子 と 人 婦
號 七 第 卷 參 第



馬^{うま}と 狐^{きつね}

やまとの翁

むかし 一人^{ひとり}の農夫^{ひやうしゆ}
がありまして、一匹^{いっぴき}の馬^{うま}を
飼^かって居^ゐりました。さて、
この馬^{うま}は、永年^{ながねん}忠義^{ちゆうぎ}に働^{はたら}い
て來^きたのですが、だんく
と年^{とし}を取^とってから、も一、
今^{いま}では力^{ちから}もなくなつてしま
つて丸^{まる}つきり、働^{はたら}くことが

できなくなりましたので、可愛相に、この主人は、何んにも
物などやらないことにしました。それで、或日のこと、この馬
に申しますには、

「お前の様な、働けない者には、も一用がないから今日かぎり
家を出ておいで、夫とも、家に居りたいのなら、今から山に
行つて大きな獅子を一匹引つ張つておいで、夫が出来る位の
力があるなら、又家へ置いてやるから」

といつて、瘠せこけた馬をと一ぐ厩からひき出して、外
へ追ひ出してやりました。

そこで、馬は、しかたがないから、すぐくと、門を出て、長
い首を下向けにして、森の方へでかけて行きました。木の蔭の

所へでも行つて寢やうと思つたのです。

所が 途中で、一匹の狐に遭ひました。ふだんからお仲よしの友

だちですから、いきなり、狐の方から 聲をかけて、

『やー、馬さんじゃないか、大層心配そーな顔付きをして、夫

に、もー、夕方じゃないか、一體何處へ行くのです?、

と尋ねました。すると、馬は、

『おや、誰かと思つたら 狐さんかい、どーも困つたことが、

もち上つたのよ

『へー、困つたことつて?! どーしたの?』

『まー こーなのさ、そら、君も知ってる通り、僕は、随分永
い間、忠義を盡して働いて來たのだらう。所が、もー、この通

り年を取って、益にたゝないといふので、今迄の事は忘れてしまつて、主人は何んにも食べさせてくれないじゃないか、そして今晚つきり、と一ぐ厩から追ひ出されたのだが、君がたと違つて、僕には寝る穴もなし、眞實に困るな――

『へー、夫で、も――全く望みなしなの？』

『望みて!?、ないこともないのだが、とても、僕には出来ない相談なんだからな――』

『出来ない相談って、一體どーいふ相談です、事によつたら、僕だつて相談相手になれない事もないよ。』

『獅子を引つ張つて來たら、又家へ入れてやらうといふのだもの!、眞實に無理な相談だよ、僕等には、とても出来ないこつ

たからな一

狐は、この話を聞いて暫く首傾けて、考へて居ましたが、

『出来るよ 出来るよ 馬さん 僕は君を助けてあげる、それ

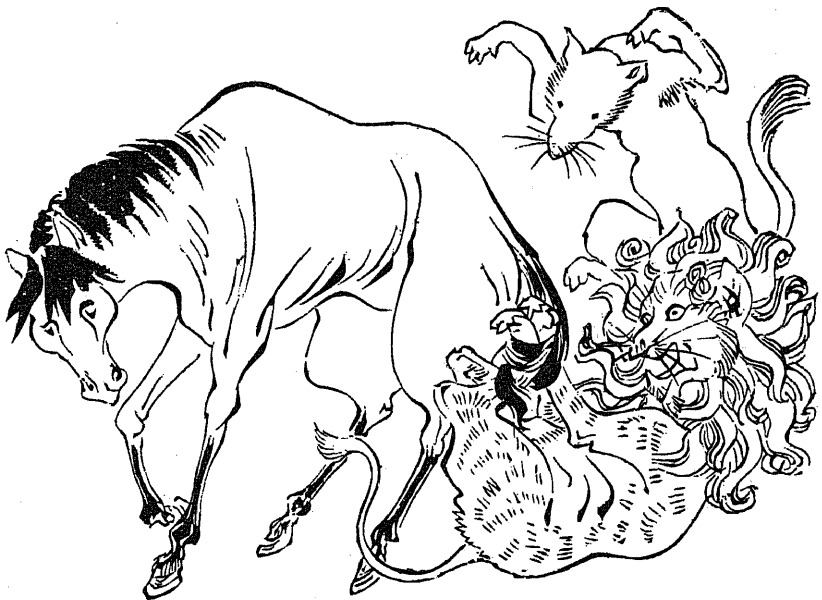
こそするのです。君はこゝで死んだ風をしてじつと動かないで横に倒れて居なさい 今に計略をやるから

そこで、馬は狐の言ふ通りになって、死んだ風をして斃れて居ますと、狐はすぐ驅けて行つて、獅子の洞穴の口へ行きました、獅子に申しますには

『この先の所に、馬が一匹死んで居ます、今からすぐ私と一緒に所においでなさい、大層な御馳走が出来ますからすると、獅子は ゆらりと洞穴の中から出て来て

『ウン よく知らせて来た、夫ではお前、案内をしろ
 そこで 狐と連れ立って 馬の所までやって来ますと 狐は
 『シッ！、そら、ご覧なさい、此通りだ、私 これを都合のよ
 い様にしてあげましょー それは、この馬の尾を、あなたの足
 へむすび付けけるのです、あなたは夫を引張って、洞穴へ持って
 行って、お腹の空いた時分、何時でも ゆっくりお食いなさい
 すると 獅子は大變喜んで、さすが、狐丈あって 中々甘い
 事をいふと思つて、『じゃ、くゝりつけて呉れ』といつて、くる
 りと 後ろ向きになつて、靜にして じつと待つて居ります。
 狐は『へい、く、畏まりました』と言ひながら、これも、成る
 たけ そーつと 馬の尾を獅子の足へくゝり附けます。獅子は

狐が甘くやってくれることゝ思
 って、黙ってこくりく居眠
 りをしながら立って居ると、
 狐は時々獅子の様子を見て
 は又後へ回って来て、とーと
 ー獅子の足を四本とも、動かな
 い様に、馬の尾でぎっしりと
 縛って仕舞いました。
 もー大丈夫と思つて、狐は不
 意なり。『一二三』と合圖をします
 と、今まで死んでると思つた



馬は ひよいと立ち上った 獅子は いー心持に居眠りをして
居ったのですが 吃驚して目を覺まして もー引張って宜いの
かと思つて 一足歩き出さうとした所が、四足とも一所に縛ら
れて居るので 叶ひません、いきなり 地響して 打ち倒れた
そこで始めて 狐の計略におちたのだと知つたもんだから、さ
ー堪らない 大きな目を向き出して 恐ろしく 咆へ立てた。
其聲の凄いことと言つたら、今まで 森として 樹の上などに
眠つて居た鳥どもは 皆吃驚仰天して、一度に飛び起きた位で
した。

然し いくら咆へても 哮つても、もー四脚とも固く縛つて居
るから 大丈夫、馬は ゆっくり／＼地面の上を引きづつて と

狐は山へ歸るし馬は家に這入りました。こゝで狐にお禮を言つて

恐ろしいうなり聲に驚いて主人が寢間から飛び出して見ると、前程出してやった馬が、大きな獅子を一匹引張つて來たのでしたから、主人も此馬が年老つてまでこんなに強くて忠義なのに感心をして夫からは何時までも可愛がつて家に飼つてやることにいたしましたとさ。

めでたし／＼